

手術を行う前に、麻酔リスクや
出血リスクを減らす
検査を行います。



麻酔前に行われる血液検査をご紹介します。

麻酔前に全身状態や臓器の状態を確認する検査

完全血球計算・血液化学検査

どんな検査ですか？

- 健康な動物であっても麻酔にはリスクがあります。
特に肝臓や腎臓に問題がある場合や、隠れた疾患がある場合、
麻酔による問題が起きる可能性が高くなります。
そのため麻酔が必要な手術を行う前には、
貧血や炎症など体全体の状態を調べ、血液凝固に必要な血小板数を
確認する完全血球計算、および臓器別の状態を評価する
血液化学検査を実施することが推奨されています。
- また、必要に応じて尿検査、画像検査等を
組み合わせることもあります。



手術前に出血リスクを確認する検査

血液凝固検査



どんな検査ですか？

- 正常な動物では出血があると、血液を凝固し止血する複雑な機構が作動します。しかしこの機能に異常があると、手術時の出血のリスクが高くなります。血液凝固異常には後天的なものと遺伝性疾患によるものがありますが、血液凝固機能に心配があるケースでは手術前の血液凝固検査の実施が推奨されます。
- 血液凝固の過程では複数の因子が連続的にはたらくため、そのどこか一部に異常があると、凝固がうまく進まず止血までの時間が長くなります。そのため、血液凝固検査では凝固時間や凝固因子量を評価します。代表的な検査項目としてPT, APTT, フィブリノーゲンなどがあります。

動物病院で手術を受ける場合は、
担当の獣医師の先生に「術前に行う検査」
について確認しましょう。